



ほうさ 第22号

1985年3月

名古屋市蓬左文庫

Nagoyashi Hôsabunko

展示室 よ り

江戸文学展

— 都市「江戸」の繁栄 —

I. 3.23(土)~4.21(日)

II. 4.25(木)~5.26(日)

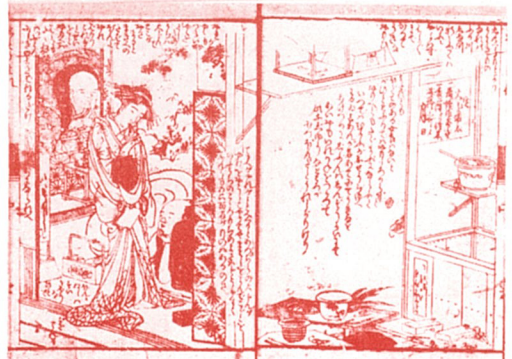
慶長8年(1603)、徳川家康が江戸に幕府を開いた時から、江戸は日本の政治の中心となった。しかし、江戸が文化においても日本全体をリードしはじめるのは、18世紀も半ば以降のことである。

17世紀、文化の中心は、京、大坂を中心とした上方にあり、古くからの学芸の伝統と大坂町人の経済力に支えられて井原西鶴、近松門左衛門等が活躍した。しかし、元禄から正徳にかけての貨幣改鋳(1695~1714)および享保の改革をへて、上方経済は大打撃を受ける。と同時に、これ以後、彼らの文化もまた保守化し、停滞していったのである。

一方、江戸は、18世紀までに都市形成を完了し、衰退しはじめた上方経済に対して、経済的独立を果しつつあった。八代将軍吉宗の学問・実学奨励の政策は、儒学に限らず、自然科学・国学などの一流の学者を江戸に集めることとなり、江戸は学問の中心地ともなった。さらに文芸面で重要な事は、江戸言葉が洗練され、文芸語として使用されるようになったことである。このようにして江戸は、経済的にも文化的にも上方からの自立を果し、文学においても上方の支配を脱して、江戸言葉による独自の文学を生み出していったのである。

18世紀半ばに生れ、幕末に至る江戸文学は、寛政の改革(1787~1793)を挟んでその性格を大きく変えている。改革以前、18世紀後半の江戸は、大岡忠光、田沼意次とつづく側用人政治のもとで、商業資本が優遇され町人の力が伸長して自由な空気が支配していた。当時の江戸では、狂歌や川柳、小咄を嗜む会合が各所で開かれ、洒落本や黄表紙が盛んに出版された。どれも、世相のあらゆる事象を戯画化し、「穿ち」の対象とすることによって、笑いを生み出していた。それは、人心の弱所や欠点を衝き、社会の矛盾を暴く時には、平賀源内の「風流志道軒伝」や「根無草」のような諷刺文学となったが、むしろ、痛切さ・深刻さを欠いて観察の機微を笑うに止った場合の方が多かった。さらにこうした文学を支えたのは、江戸町人の富を代表し、江戸の社交場吉原を舞台に通を気どった札差をはじめとする上・中流の商人たちであり、本業の武士や商人の余技として、狂歌や戯作を手がけた知識人たちであった。

天明7年(1787)6月、松平定信が田沼意次に代わって老中となり、寛政の改革が開始されると、江戸の文壇は、大きな打撃を被ることになった。世相全般を「穿ち」の材料としていた黄表紙は、改革を題材にした「文武二道万石通」などの改革物をつぎつぎ出版し、前代未聞の好評を博した。しかし、当時躍起になって改革を断行中の保守政治家を茶化して無事なはずはない。秋田藩士朋誠堂喜三二は自粛して筆を折り、駿河小島藩士恋川春町は、定信の呼出



「江戸生艶気棒焼」(黄表紙)

しに対して、俄に病没（一説には自殺）している。もっぱら、遊里における客と遊女の一夜の遊興を描くことに専心してきた洒落本は、悪所への手引所として出版を禁止され、禁を犯した町人作家山東京伝が手鎖50日の処分をうけている。さらに、狂歌界の重鎮、幕臣大田南畝は、改革批判の狂歌を作ったという噂に、自ら狂歌界を隠退し、その後は有能な幕吏としての道を歩んだ。改革後、洒落本・黄表紙から洒脱な笑いは失われ、狂歌や川柳は保守化していった。

寛政の改革によって江戸文学は、その性格の変更を余義なくされた。改革政治によって大通をきどった浅草蔵前の札差は損害を被り、吉原は急速に衰退していった。洒落本や黄表紙を世に送り出した武士階級の戯作者たちは筆を折らざるをえなかった。と同時に、かつてもはやされた「通の世界」という狭い閉鎖意識は世間の批判をあび、追放されようとしていた。それはまた、特殊知識階層から江戸の小市民層への読者層の広がりをも示している。さらに、三都に限らず全国的な商品経済の発達によって、地方文化の成熟が見られ、文学の読者は全国的に広がっていった。これにあわせて、出版界も全国的な流通組織を整えていったのである。こうした状況を背景に、江戸文学は、一部の江戸市民を対象とした「通」や「うがち」の文学から、全国の読者を相手としたわかりやすく、おもしろい、人情と勧善懲悪を主体とした大衆の文芸へと変わっていったのである。

洒落本、黄表紙の衰退によって失なわれた笑いの文学は、享和2年（1802）十返舎一九の「東海道中膝栗毛」にはじまる滑稽本によって復活する。男性向けの遊里短編小説であった洒落本は、文政年間（1818～1830）、女性向けの恋愛長編小説である人情本へと変身をとげた。一方、忠孝という封建道徳を軸に、複雑な筋の転回を見せる伝奇小説が、文章中心の程度の高い読み物であった読本と、大人向け絵入読み物黄表紙の分野で流行しはじめる。中国の翻案小説として出発した読本は、滝沢馬琴によって大成され、大ベストセラー「南総里見八犬伝」を生み出した。黄表紙は、もとは五丁一冊の絵入り読み物であったが、題材を敵討物などに求めた結果長編化し、4～6冊を合綴して売り出すようになり、合巻と呼ばれた。合巻は、当時鶴屋南北の登場で爛熟期にあった歌舞伎の趣向を筋立てに取り入れたり、表紙には、鮮かな彩りの錦絵を使ったりして人気を得、大衆娯楽長編挿絵小説としてもっとも多くの読者を有したジャンルであった。

文化・文政期（1804～1830）の江戸文化の華やかな開花期をへて、江戸の文学は天保の改革（1841～1843）に直面する。人情本は、為永春水の処罪と病没により壊滅的打撃をうけ、合巻では、読本の「八犬伝」と並ぶ大ベストセラー「億紫田舎源氏」が、当時の11代将軍の大奥を模しているという風聞によって絶版を命ぜられ作者柳亭種彦は、その翌月に死亡（一説に自殺）という筆禍事件がおこるに至っている。

この後、江戸文学はそれぞれに、幕末をへて明治の初年頃までは、その命脈を保ちつづける。しかし、転換期の社会の変動の中で、明治も10年代をすぎると江戸の大衆文学は、ほとんどその形を消滅させてしまうのである。

今回展示する江戸文学書 129 件のうち10件をのぞいて、すべて当文庫蔵の尾崎久弥コレクションに属するものばかりである。

尾崎久弥氏（1890～1972）は、江戸軟派文学の先駆的研究者で、戦前から江戸文学および浮世絵の収集家として知られていた。氏の一万点におよぶコレクションは、氏の没後まもなく、昭和47年、名古屋市に寄贈され現在は、蓬左文庫において一般に公開されている。（コレクションのうち、浮世絵については、昭和58年度名古屋市博物館に移管されている。）その内容は、近世庶民文学全般にわたっており、特に、洒落本、滑稽本、合巻は、質量ともすぐれ、他に類を見ない。

★穿ち（うがち）

一般に気づかれていない裏の事情や細かい事実、世態、人情などの複雑で微妙な点をいち早くとらえ、事実を鋭くついたすぐれた表現をもって真実を示すこと。

★通（つう）

ある特定の社会（特に遊里など）の人情、風習、言語などに精通した知識を具えており、それによって適切な応待や行動がとれるように洗練されている状態を意味する。洒落本などでは、通をよそおっているだけで本物の通ではない人物を半可通として滑稽の対象とした。

参考文献

- 尾形叡等編 「近世の文学」上、下 有斐閣 1977年
- 久松潜一等編 「新版日本文学史」近世Ⅰ、Ⅱ 至文堂 1971年
- 暁康隆等著 「日本の文学」4、5 至文堂 1965年



「春色梅児与美」（人情本）

「江戸文学展」出品目録

I. 「通」と「穿ち」の文学

〈談義本〉

1. 当世下手談義〔教訓——〕
静観房好阿 宝暦2年刊 5巻5冊
2. 当風辻談義〔下手談義前後評判〕
嫌阿（嫌阿弥陀仏） 宝暦3年刊 5編5冊
3. 当世花街談義〔問答——〕
孤舟 宝暦4年刊 5巻5冊
4. 飛だ噂の評
風来山人（平賀源内） 刊（安永7年序） 1冊
5. 放屁論
同 刊（安永3年） 1冊
6. 放屁論後編
同 刊（安永6年） 1冊
7. 矮陰隠逸伝（「風来六々部集」の内）
同 安永9年刊 1冊
8. むだ砂子
多羅福孫左衛門 翠松堂画
刊（天明6年序） 1冊

〈洒落本〉

9. 合刻両都妓品〔新刻西都妓品附方言〕
遊戯主人 刊（享保18年序） 1冊
両巴底言
史林残花
10. 月花余情
（献笑閣主人序） 刊（延享3年） 1冊
11. 陽台遺編・姪聞秘言
（同） 刊（宝暦年間）合1冊
12. 百花評林
探花亭主人 刊（延享4年序） 1冊
13. 瓢金窟
烏有主人 延享4年刊 1冊
14. 跣婦人伝
泥朗子 宝暦3年刊 3巻3冊
15. 雪月花（聖遊廊） 宝暦7年刊 1冊
16. 列仙伝（聖遊郭二編——）
先賢ト子夏 宝暦13年刊 1冊
17. 遊子方言
田舎老人多田爺 刊（明和7年）（後摺） 1冊
18. 辰巳之園
夢中散人寝言先生 安永2年再版 1冊
19. 真女意題
森羅万像（竹杖為輕） 刊（安永10年序） 1冊
20. 美地之蟬殻
〔蓬萊山人帰橋〕 刊（安永8年序） 1冊
21. 富賀川拝見
同 勝川春郎画 刊（天明2年序） 1冊
22. 愚入贅漢居続借金
同 刊（天明3年序） 1冊
23. 十八大通百手枕〔傾城買指南所〕
田水金魚（田螺金魚） 刊（安永7年序） 1冊
24. 当世とらの巻〔契情買虎之巻〕
田螺金魚 刊（安永7年序） 1冊
25. 当世とらの巻後編〔同〕
同 刊（文政9年序） 6冊

26. 古今三通伝
夢中庵江陵散人 一醉画 刊（天明2年序） 1冊
27. 令子洞房
山東京伝 北尾政演（山東京伝）画
天明5年刊 1冊
28. 客衆胆照子
同 同 天明6年刊 1冊
29. 古契三娼
同 同 刊（天明7年序） 1冊
30. 百人一首和歌始衣抄〔初衣抄〕
同 同 同 1冊
31. 通言総鑑
同 山東けいこう画 同 1冊
32. 大橋風俗 仕懸文庫
同 山東京伝画 刊（寛政3年序） 1冊
33. 青楼昼之世界錦之裏
同 同 1冊
34. 手段話物 娼妓箱籠
同 同 1冊
35. 田舎芝居
万象亭（竹杖為輕）作・画 刊（天明7年序） 1冊
36. 青楼小鍋立
成三樓主人 子興画 刊（享和2年序） 1冊
37. 婦足筒
同 同 同 1冊
38. 傾城買二筋道
梅暮里谷峨 雪華画 刊（寛政10年序） 1冊
39. 二筋道後編廓の癖
同 国政画 刊（寛政11年序） 1冊
40. 二筋道二篇宵の程
同 刊（寛政12年） 1冊
41. 契情買言告鳥
同 雪華画 刊（寛政12年序） 3巻1冊
42. 廓の桜
同 同 刊（享和元年序） 1冊
43. 夢之盗汗
同 同 1冊
44. 夢江後篇 妓情返夢解
同 栄松齋長喜画 刊（享和2年序） 1冊
45. 自惣鏡
振鷺亭 刊（天明9年序） 1冊
46. 狂言綺語 見通三世相〔六三郎——〕
同作・画 刊（寛政年間） 1冊
47. 客衆一華表
関東米（同）作・画 同 1冊
48. 野良の玉子
十返舎一九 一楽亭栄水画
刊（寛政13年序） 1冊
49. 起承転合
同作・画 刊（享和2年序） 1冊
50. 起承転合後編遊治郎
同 同 1冊
51. 俗客真話 廓意気地
同 同 1冊
52. 石塘妓談 辰巳婦言
式亭三馬 喜多川歌麿画 刊（寛政10年序） 1冊
53. 船頭深話〔辰巳婦言第二集〕

四季山人(式亭三馬) 春喬画

刊<文化2年> 2冊

54. 船頭部屋〔船頭深話第二集〕

猪牙散人(同) 春龍画 刊<文化年間> 1冊

55. 契情質談客物語

式亭三馬 根岸山人(式亭三馬)画
寛政11年刊 1冊

<赤本>

56. 桃太郎後話

物愚齋於連 蘭德齋春童画 刊 1冊

57. 舌切雀後日物語

四川庵作・画 刊 1冊

<黄表紙>

58. 金々先生栄花夢

恋川春町作・画 安永4年版
(大正12・昭和2年稀書複製会刊) 2巻2冊

59. 夫従以来記

万象亭竹杖為輕 喜多川歌麿画 天明4年版
(昭和3年稀書複製会刊) 3巻3冊

60. 江戸生艶気樺焼

山東京伝 北尾政演画 刊<天明5年>
3巻3冊

61. 三升増鱗祖

恋川春町 安永6年版
(昭和2年稀書複製会刊) 3巻3冊

62. 文武二道万石通

喜三二 喜多川行磨画 刊<天明8年> 3冊

63. 老実製法 親鸞勝青菜

曲亭馬琴 一柳齋豊広画 刊<文化2年序>1冊

<咄本>

64. 鹿の子餅

山風(木村卯雲) 勝春章画
刊<明和9年序> 1冊

65. 聞上手

不知足散人 刊<安永2年序> 3編3冊

66. 鶴の毛衣

桜川慈悲成 刊<寛政10年序> 1冊

67. 新落し噺

二世立川馬馬 歌川国直画 嘉永3年刊 1冊

<狂歌・狂詩・川柳>

68. 寝惚先生文集初編

毛唐陳奮翰(大田南畝) 明和4年刊 2巻1冊

69. 狂歌蓬萊集

玉光舎占正編 後素人空言等画
刊<文化4年>2巻1冊

70. 若葉集(「続学舎叢書」第8冊の内)

唐衣橘洲 写<天明2年序> 1冊

71. いなか曲紅はたけ

秋江齋楓興 刊<安永9年序> 1冊

72. 柳の葉

柳下亭種貝 歌川広重画 刊 5編5冊

II. 大衆の文学

<滑稽本>

73. 東海道中膝栗毛

十返舎一九作・画 刊<享和2~文化11年>
8編18冊

74. 続膝栗毛

十返舎一九 明治14年刊 12編25冊

75. 続々膝栗毛

同 歌川国直画 天保7年刊(天保2・6年序)
3編6冊

76. 譚話浮世風呂 巻下

式亭三馬 歌川国貞等画 刊<文化6年> 1冊

77. 無面七癖 酩酊氣質

同 歌川豊国画 刊<文化3年序> 3巻3冊

78. 当世七癖上戸〔新水鳥記〕

同 歌川国貞画 刊<文化7年序> 3巻3冊

79. 例之酒癖 一盃綺言

同 歌川豊国画 刊<文化10年> 1冊

80. 癖所謂 四十八癖 初~三編

同 歌川国直等画 文化9~14年刊 3冊

81. 人間万事虚誕計

同 歌川国直画 刊<文化10年序> 1冊

82. 狂言田舎操

式亭三馬・馬笑 歌川国貞画 刊<文化8年>
2巻2冊

83. 古今百馬鹿 初稿

式亭三馬 歌川国直等画 刊<文化10年序>
2編2冊

84. 忠臣蔵偏痴氣論

同 歌川国直画 文化9年刊 1冊

85. 柳聖新話 浮世床 三編

滝亭鯉丈 同等画 刊<文政6年序> 3巻3冊

86. 花暦八笑人

滝亭鯉丈等 溪齋英泉等画
嘉永2年刊<文政3年~> 5編7冊

87. 滑稽和合人

滝亭鯉丈 溪齋英泉画
初編 文政6年刊 3巻合1冊

二編追加

刊<天保5年序> 1冊

88. 滑稽笑話 牛島土産

同 同 文政7年刊 3巻合1冊

<人情本>

89. 傾城 蘭蝶記 三編上

鼻山人 溪齋英泉画 刊<文政7年序> 1冊

90. 三曲廊日記朝霧全伝

同 瑤斎玉成画 文政10年刊 5巻合1冊

91. 春宵 朧月夜 四編上 五編上・中

二世南仙笑楚満人(為永春水) 溪齋英泉画
刊<文政10年> 3冊

92. 春色梅児与美

狂訓亭主人(同) 柳川重信等画
天保3・4年刊 4編12冊

93. 梅暦 春色辰巳園 二編巻四

同 歌川国直画 刊<天保5年> 1冊

94. 春色恵の花

同 溪齋英泉画 天保7年刊 2編6冊

95. 春抄 媚景 英対暖語〔春色——・梅ごよみ拾遺別伝〕

巻一・二

- 同 静斎英一画 天保9年刊 2冊
96. おさん 花名所懐中曆
同 溪斎英泉画 刊(天保7・9年序) 4編12冊
97. 風月 春告鳥 二編下・三編上・四編上・五編上
同 歌川国直画 刊<天保6～13年> 4冊
98. 春曉八幡佳年 三編卷一
同 静斎英一画 刊<天保7年> 1冊
99. 春色雪の梅
狂言亭(為永)春雅 歌川貞秀画
刊(天保9年序) 4編4冊
100. 閑情未摘花 卷三
松亭金水 歌川貞重画 刊<天保10年> 1冊
101. 小三 仮名文章娘節用
金五郎 曲山人 刊(文政14年序) 3編9冊

<読本>

102. 南総里見八犬伝
曲亭馬琴 柳川重信等画
刊<文化11～天保13年> 101巻106冊
103. 近世怪談霜夜星
柳亭種彦 葛飾北斎画 文化5年刊 5巻5冊

<合巻>

104. 安積沼後日仇討
山東京伝 歌川豊国画 刊<文化4年> 2編合2冊
105. ひらかな 八重霞かしくの仇討
よみ本 同 歌川豊国画 文化5年刊 3編合3冊
106. 笠森娘錦之笈摺
同 同 文化6年刊 合1冊
107. 八百屋 松梅竹取談
於七伝 同 歌川国貞画 同 2編合3冊
108. 正本製
柳亭種彦 同 刊<文化12～天保2年> 11編(6編欠)合11冊

109. 雷太郎義勇物語
式亭三馬 歌川豊国画 刊(弘化年間再版) 2編合1冊
110. 方言 金草鞋〔南部路記旅雀〕 21編
十返舎一九 歌川国信等画 天保元年刊 2冊
111. 同〔越中山山紀行〕 18編下
同 歌川国安画 刊<文政11年> 1冊
112. 諸国道中金の草鞋
同 墨亭月鷹等画 明治年間刊 24冊
113. 伊達道具鳥羽累
市川团十郎 歌川国貞等画 刊<文化12年> 3編合3冊
114. 金毘羅船利生纜 三編一 七編一・二 八編一
曲亭馬琴 溪斎英泉画
刊<文政7年～天保2年> 4冊
115. 修紫田舎源氏
柳亭種彦 歌川国貞画 文政12～天保13年刊 38編合19冊
116. 児雷也豪傑譚
美図垣笑顔等 香蝶楼国貞(初代)等画
天保10～元治2年刊 42編合21冊
117. 大晦日曙草紙 七編上
山東京山 歌川国貞画 天保13年刊 1冊

118. 品定五人娘 初～四編
同 一猛斎芳虎画 嘉永5～7刊 合2冊
119. 釈迦八相倭文庫
万亭応賀 一陽斎豊国等画
弘化2～明治4年刊 58編116冊

120. 白縫譚
柳下亭種員等 香蝶楼豊国等画 70編140冊
121. 犬の草紙
笠亭仙果等 一陽斎豊国等画
嘉永元～明治3年刊 53編合27冊
122. 女郎花五色石台
曲亭馬琴等 歌川国安等画
弘化4～安政7年刊 8編合6冊

<演劇>

123. 於染久松色読販
鶴屋南北 歌川国貞画 天保2年刊 4巻5冊
124. 絵本いろは仮名四谷怪談
同 春梅斎北英画 天保6年刊 5巻5冊
125. いろは仮名四谷怪談 後編
同 同 天保6年刊 5巻5冊
126. 三葉草
立川馬馬 国貞画 天保3年刊 2冊
127. 三橋檣古之大會 豊国画(長友千代治氏蔵) 4枚
128. 〔源氏絵—文車—〕 国貞画(同) 3枚
129. 古今名婦伝小野小町〔草子洗小町〕
豊国(三代目)画(同) 1枚

目録中、太字の番号は尾崎コレクション、細字の番号はそれ以外のものであることを示す。また、刊行年の〈 〉は、その書物の初版刊行年を表わす。



「修紫田舎源氏」(合巻)

— 次回は —

医学書展

7/6～9/1

です

出版物一覧

名古屋市蓬左文庫漢籍分類目録(S. 50年刊)	3,500円	名古屋叢書三編第12巻(S. 56年刊)	3,000円
名古屋市蓬左文庫国書分類目録(S. 51年刊)	4,000円	同 第8巻(S. 57年刊)	3,000円
名古屋市蓬左文庫古文書古絵図目録(同)	2,500円	同 第16巻(同)	3,000円
尾崎久弥コレクション目録第一～三集		同 第19巻(同)	3,000円
(S. 52～55年刊)	各 1,500円	同 第17巻	
名古屋叢書(正編)索引・総目録(S. 53年刊)	2,000円	一横井也有全集 中一(S. 58年刊)	3,000円
名古屋叢書続編 索引(S. 47年刊)	700円	同 第4巻	
名古屋叢書続編総目録(S. 44年刊)	400円	一士林沅続編一 (S. 59年刊)	3,000円
善本解題図録第一～三集(S. 55年再版)	各 300円	同 第9巻	
日本の古典<蓬左文庫図録>(S. 52年刊)	200円	一松濤棹筆(抄) 上ー(S. 60年刊)	3,000円
蓬左文庫・源氏物語図録(S. 53年刊)	300円	同 第11巻	
蓬左文庫所蔵古地図複製(S. 55～60年刊)		一楽寿筆叢他一 (同)	3,000円
No. 1～No.13	各 1,800円	堀田文庫蔵書目録(S. 58年刊)	500円
御本印型書鎮(S. 58年製)	1,000円	蓬左文庫図録(同)	1,500円
		蓬左文庫絵葉書<8枚組>(同)	300円

★以上の出版物は、本文庫事務室において頒布しています。郵送希望の方は郵送料が必要ですので、お問い合わせ下さい。(ただし、古地図複製は郵送不可)

利用ご案内

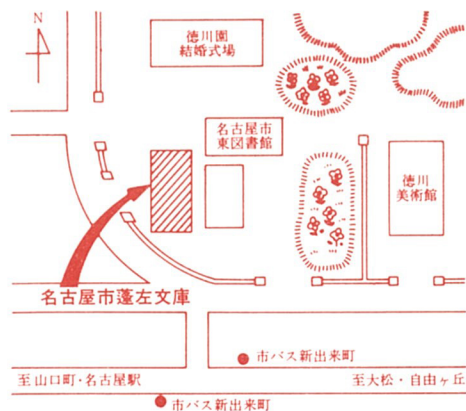
- ▷開館時間 午前9時30分～午後5時
- ▷休館日 毎月曜日・第3金曜日(館内整理日)
祝日 (日曜に重なる場合は日曜開館、月・火休館)
月曜 〃 月・火休館
年末年始(12月28日～1月4日)
- ▷閲覧 館内に限り、館外貸し出しはいたしません
(閲覧料) 普通図書 無料
重要図書 有料(1部350円)
- ▷展示 随時蔵書の一部を展示
(特別展を除き入場無料)
- ▷複写サービス 普通図書のうち、保存上影響のないものについて複写サービスを行います。その他、マイクロフィルムの利用、写真撮影の申請を受け付けますので、ご来庫の上、ご相談下さい。

名古屋市蓬左文庫

〒461 名古屋市東区徳川町1001番地

☎(052)935-2173

(市バス 新出来町 北 100m)
山口町 東 500m)



「蓬左」第22号 ☆昭和60年3月23日発行 ☆編集・発行：名古屋市蓬左文庫(東区徳川町1001番地)

☆無料 ☆不定期刊行 ☆印刷：大同印刷株式会社(東区泉2-3-18)